

学校名	愛知県 岡崎市立常磐東小学校

活動のテーマ	地域とともに歩む防災活動
主な教科領域等	教科領域（生活・総合的な学習の時間）
対象学年／参加生徒数	全校児童48人が活動に関係しているが、中心的には6年生児童8人
活動に携わった教員数	全教職員12名が活動にかかわっているが、中心的には3名の教職員（校長、教務、担任）
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	約100人 【保護者】・地域住民・その他（愛知工業大学 ドゥチュープ）】
実践期間	平成27年4月6日 ～ 平成28年3月10日
想定した災害	地震・津波・台風・洪水・河川氾濫・土砂・その他（落石・土石流・がけくずれ）

活動報告

1) 活動の目的・ねらい

- ・災害を未然に防いだり、災害の被害を最小限にしたりするために、学校や家庭生活・登下校・地域等において、児童が危険を速やかに発見し、自らの身の安全を確保できるようにする。
- ・児童が、地域の方々と協力し、通学路や地域の危険箇所や避難場所などを書き込んだ防災マップを作成して、学校や地域で発表して防災意識の高揚を図る。
- ・学校が、家庭や地域、関係諸機関（大学・NPO法人・市や県の防災課等）と連携して、より充実した防災活動を展開する。

2) 実践内容・実践の流れ・スケジュール

- ①本年度の防災活動の目標を立てる（何ができるか、何をしたらよいか）
 - ・地域にアンケートを実施して、昨年度の活動の反省などを踏まえて活動の目標を立てる。
- ②昨年度制作した防災マップを改良するため、地域の方々と協力して「まちあるき」を計画・実践する。
- ③地域で実施したアンケートを分析し、学校・地域・関係機関で組織した防災会議で今後の活動を決定する。
- ④防災マップの改良、具体的な活動、実践の報告(学校・地域・保護者を対象にして)、次年度への課題の確認

3) 研修会から自校の実践に活かしたこと

東北の小中学校を訪問し、児童生徒が中心となって活躍していた。本校でも、児童が中心となって、学校での避難訓練や通学時の避難訓練を実施した。また、日本赤十字社の方々を講師に招聘して、児童・教職員・保護者の講習会の開催をした。助成金の活用で可能になったこととして、地域の防災危険箇所、児童のオリジナル防災看板を作り設置することが可能となった。

4) 実践の成果

①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

○下級生に情報が引き継がれ、学校の継続的な防災教育に発展すること

昨年度の6年生の後輩に対する願いを受けて、新6年生が活動の中心となった。6年生が、「子供避難訓練」を企画し、全校の下級生をグラウンドまで避難誘導を行うという新たな試みを実施した。また、一昨年に卒業生が作った防災看板を改良して、より耐久性の高い新看板の製作をした。その際に、デザインを決める「防キャラグランプリ」を開催し、全校児童・保護者・地域の方にも投票していただき防災への関心も高まった。後輩にも同様の防災活動を引き継いでもらうことを強く希望している。そのために、今年3月、これまでの防災活動についての報告会を後輩や地域の方を対象に企画しており、今年度のまとめとともに、来年度に向けた課題や活動案なども現在考えられている。

○活動による防災意識の変化を調査し、今後の活動のステップアップに生かすこと

6年生児童が、6月に学区全戸の350世帯にアンケートを実施し、約8割の方から回答を得た。その結果防災に関する備えとして94%の方が防災の備えているとの回答をいただき、意識としては高まりつつあると実感した。また、見守り隊「大葉の会」の発足、地域のAED講習会の実施などからも活動がステップアップしている様子が伝わってきた。これも地域役員の方をはじめ、多くの方が協力していただいたからだと思う。

○学校や通学路だけでなく、さらに地域に広げていく活動

今年に通学路だけでなく広い地域にも足を運んで危険地区の調査をした。そこで分かったことは、学区において青木川沿いの県道が唯一の幹線道路であり、適切な迂回路はないことである。孤立してしまった場合を考えて、防災倉庫の点検、家庭での備蓄状況の調査、昨年度設置された「公衆電話」を使った安否連絡訓練などを、子供たちの目線で活動を実施することができた。

②児童生徒が、何を学び（変容）・どのような力（資質・能力・態度）を身につけたか。

本校は全校児童 48 名の小規模校である。したがって、多くの友達との関わりが少なく、素直な反面、自分に自信がもてなく、意欲的に周囲の人に話しかけたりするのが苦手である。また、指示されなければ自主的・積極的な活動があまりできない傾向にある。その中でも今回は、8名の6年生の児童が中心である。

昨年度の卒業生の願いを受けて、自分たちの活動を「防災 Jr.レンジャー・セカンド～地域と共に～」と名付け、学校や登下校での避難活動を自分たちでやり遂げたいという思いが高まり、我が校で初めて実施した。その他、1年間にわたり、地域の方々や愛知工業大学の先生や学生の皆さん、NPO法人ドゥーチューブ等関係諸機関、日本赤十字社の方々など、多くの方々といっしょに活動した。その結果、防災アンケートを実施したり、学区に「防災看板」を作製したり、防災マップをよりよいものに改良したりするなかで、学校や地域の防災リーダーとして取り組んでいくんだという自覚が育ってきた。さらに、今後も後輩に、防災活動を継続・発展してもらうことを強く望んでいる。そのために、今までの自分たちの活動や今後の願いを後輩や地域の人に伝えるための発表会を3月初旬に予定している。以上のことから、6年生の児童は、防災活動を通して周囲の人のために尽くす行動によって、自己に自信が持てるようになり、自尊感情・自己存在感が高まってきたと思われる。また、それにより、自主的・意欲的な態度や言動が見られるようになってきた。

③教師や保護者、地域、関係機関等（児童生徒以外）の視点から

子供たちは、学校や地域の防災のために本当によく努力した。看板を頼まれた業者からも、「人数は少ないが、子供たちの熱心な気持ちがしっかりと伝わってきた。」と感激されていた。

平成 27 年 6 月に子供たちが学区の全世帯を対象に防災アンケートを実施した。その中の「感想・意見」の欄の多くが子供たちの防災活動で、防災意識を高揚したことが書かれていた。その一部を照会する。

- ・子供たちもよく調べて努力しているので、私たち地域も一体となって真剣に防災に取り組みたい。
- ・家族全員で防災マップを見ながら、この際一度安全な避難場所などについて話す機会としたい。
- ・子供たちの調査でどこが危険な場所か、どこに避難すればよいかなど地図を見て分かってよかった。
- ・子供たちの真剣な取り組みに感激しました。よく調査しており、備えの必要性をととても感じました。

5) 自校の実践で工夫した点、特筆すべき点

○本校の研究「かかわり合い学習」を推進し、児童に自己解決力を育成していること

児童数が少ない学校にとって、防災学習を通して、子供が多くの方とのかかわり合いの中で、自己存在感・達成感・コミュニケーション能力などを身につけることができた。

○学校が中核となり、ネットワークを広げ、学校・地域・関係諸団体(市防災課・大学・NPO法人・日本赤十字・アクサユネスコ減災教育プログラム)で取り組んでいること

本校学区は、愛知県から土砂災害警戒区域に指定されている。地震や豪雨などの場合、がけ崩れや土石流で重大な被害が出る可能性がある。さらに、学区を流れる青木川の洪水の心配もあり、周辺地域から孤立する危険性もある。過疎化が進み、お年寄りが多く、避難が容易にできないなど、問題が山積している。学区総代や社教委員長は心配を募らせており、学校の防災教育に関してとても協力的である。

6) 実践から得られた教訓や課題と今後の改善に向けた方策や展望

- ①防災教育を継続し、6年生だけでなく児童の発達段階に応じて年間計画の中で防災を実践していきたい。
- ②防災マップをさらに継続的に改良を加えて、独居老人、高齢者を中心に考えた昼間の対応についても考えたい。
- ③地域の防災意識の高揚をさらに図り、あらゆることを想定した学区の防災も地域の方とともに協力したい。
- ④児童が中心となって、各町で学区全員を対象とした心肺蘇生法講習会等も実施したい。

7) その他

- ①具体的な実践は、別紙資料「地域とともに歩む防災活動—中山間地における小規模校を事例として—」を参照。
- ②学区防災マップは、「岡崎市立常磐東小学校ホームページ」の左下添付の「防災マップ」を参照。

地域とともに歩む防災活動

—中山間地における小規模校を事例として—

岡崎市立常磐東小学校校長 近藤 嗣郎

1 はじめに

常磐東小学校は、岡崎市北部の山間地にある小規模校で、学区は山々に囲まれ昔は石の町として栄えていた。一昨年の8月に土砂災害が起きた広島市の被災地と地質が非常に似ており、県からも土砂災害警戒区域に指定されている。したがって地震や豪雨などの災害が起きた場合に、がけ崩れや土石流などで重大な被害が出る可能性があり心配を募らせている。さらに、学区を流れる青木川の洪水の心配もあり、道路が寸断され、周辺地域から孤立する危険性もある。お年寄りが多く、避難が容易にできないなど、問題が山積している。

2014年(平成26年)8月21日 木曜日 涼月 岡崎

土砂災害危険箇所(うち人家がある箇所)	土砂災害警戒区域(うち特別警戒区域)
愛知県 1,777,783(1,770,896)	58,13(5,200)
岐阜県 1,750,863(1,750,860)	1,748,844(1,750,877)
三岐県 1,750,208(1,751,681)	3,028(2,753)
伊勢県 1,751,193(1,753,228)	99,13(7,513)

土砂災害危険箇所と土砂災害警戒区域の表は、国土交通省が公表している。この表は、土砂災害の危険性を示すために作成された。また、この表に基づいて、土砂災害警戒区域が指定されている。この区域は、土砂災害の危険性が非常に高いと判断された地域であり、この区域には、土砂災害の危険性を示すために、警戒区域の指定が行われている。また、この区域には、土砂災害の危険性を示すために、警戒区域の指定が行われている。

地域の危険性(朝日新聞 H26.8.21)

2 平成25年・26年度の実践

(1)平成25年度(一昨年度)の実践

平成25年度から地域・大学(関係諸機関)・学校が協力して防災教育に取り組み始めた。子供たちの通学路の安全を土砂災害の視点から見つめ、手作りの「防災マップ」づくりへ発展した。そして地域の方々に学区内の危険性について呼びかけた。

一昨年度の実績の主なものについては以下の5点である。

- 土砂災害が起きそうな危険場所の調査
- 学校の防災備蓄倉庫の確認
- 危険場所を掲載した防災マップの作成
- ライフラインとなる公衆電話が1台も無いことから設置を要望
- 危険な場所に、子供たちの手作りの防災看板の設置

年度末に学校で地域の総代さん方を招聘して発表した。その結果、地域の方々も危機感を高め、行政に働きかけ、地域に**5台の公衆電話が新設**された。また、児童の手作りの防災看板が11か所に設置された。

(2)平成26年度(昨年度)の実践の経過

8月31日に常磐東小学校の体育館で市地域総合防災訓練の実施が決まり、児童の防災研究発表が中心となった。訓練には全世帯参加を基本として、地域に防災の必要性を訴えた。

愛知工業大学やNPO法人ドゥーチューブの先生方、市防災危機管理課の方々と協力し、学校・地域・関係諸機関が連携をした防災対策に取り組んだ。また、地域の人々全員の350世帯、約1285名の防災の意識調査をアンケートで実施した。内容は、愛知工業大学方々と協力し、配付や回収は地域の総代の方々に依頼した。



H25 防災について研究発表



H25 危険箇所へ防災看板

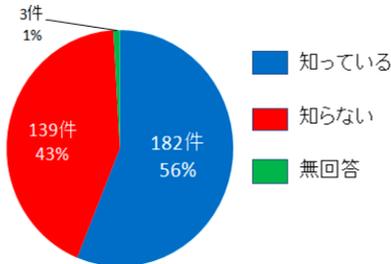


H26 防災授業「地域を救おう」

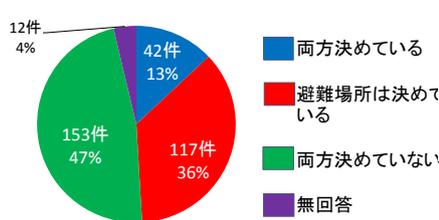
アンケート内容は、児童・大学・地域で協議の結果、以下の3つに厳選した。

- ① 家庭で防災に対して備えをしているか。何を備えているか。
- ② 常磐東小学校に防災倉庫があることを知っているか
- ③ 各自の避難場所や逃げ道を家族で決めているか。

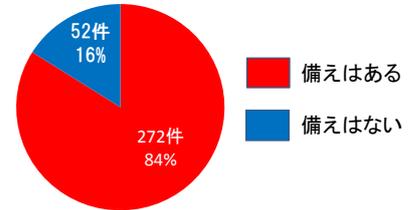
常磐東小学校に
防災倉庫があることをご存知ですか



避難場所、逃げ道
を家族で決めていますか



アンケート結果報告
家庭で災害のための備えはありますか



H26 防災研究発表(体育館聴衆 400名)

どのようなものを備えているか



備えているもの	全体	件数	割合(%)
非常食	272	137	50.4
飲料水	272	160	58.8
電池	272	183	67.3
防寒具	272	142	52.2
ラジオ	272	203	74.6
懐中電灯	272	254	93.4
医療品	272	84	30.9

- ① 災害の備えをしていないところが 16%もある。非常食については 50%の家庭しか準備していないことに、危機感を感じた。これでは突然のできごとに対応できない。
- ② 学校に防災倉庫があるのを 44%の人は知らない。倉庫の中身を知っている人はほとんどいない。食料も 1800 食しかなく、孤立した場合は学区民の 1.5 食分しかない。
- ③ 避難場所と逃げ道の両方を決めているのは、全体の 1 割余しかなかった。避難経路も避難場所も全く決めていない人が 50%近くいて、危機意識が希薄なことが理解できた。

(3)平成25年・26年度の実践の成果

◎全国防災コンテスト(独立行政法人防災科学技術研究所主催)にて全国優秀賞(2位)

◎3月17日 市長・教育長に受賞報告



高橋岡崎市教育長に全国優秀賞(2位)を報告

内田岡崎市長に全国優秀賞(2位)を報告

3 本年度の実践の経過

① 常磐東小学校防災計画の目標

- ・災害による被害を最小限のものとするために、児童の学校生活における危険を速やかに発見し、自らの身の安全を確保できるようにする。
- ・災害から自らの生命を守るのに必要な事柄についての理解を深めることのできる防災安全教育の推進を図るようにする。
- ・災害が発生した場合に、避難誘導や避難所となる学校の対応を含め、適切な緊急措置を講じることができるようにする。

② 常磐東小学校防災教育の年間の主な活動(平成 27 年度)

	防災 & 安全行事	防災会議(学校・地域・諸団体)	施設管理: 随時	地域
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・通学団会 4/7・7/16 ・通学路点検 4/7 ・防災訓練 4/9 ・親子安全教室 4/22 ・安全点検 ※毎月 1 回 ・心肺蘇生法講習 6/19 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の活動の方向性①5/13 ・防災アンケートの内容審議② 6/16 ・防災危険箇所の確認③7/23 	<ul style="list-style-type: none"> ・内外環境整備 ・通学路安全点検 ・防災施設点検 	<ul style="list-style-type: none"> 通学路草刈り 6/6 親子奉仕活動 5/9 見守り隊発足 5/14
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練 9/1 ・安全点検 ※毎月 1 回 ・通学路点検 9/1 ・学校評議委員会②12/9 ・通学団会 12/22 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク A 8/3 ・フィールドワーク B 8/5 ・防災アンケート分析④9/1 ・防災看板と防災マップ⑤10/5 ・防災マップづくり⑥11/11 ・防災マップづくり修正⑦12/7 	<ul style="list-style-type: none"> ・内外環境整備 ・通学路安全点検 ・防災施設点検 	<ul style="list-style-type: none"> 親子奉仕活動 8/22 通学路草刈り 8/29
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練 1/8 ・安全点検 ※毎月 1 回 ・通学路点検 1/7 ・通学団会 3/7 予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災看板づくり授業① 1/12 ・防災看板づくり② 1/14 ・防災看板づくり修正③ 1/18 ・防災看板設置④ 2/ 	<ul style="list-style-type: none"> ・内外環境整備 ・通学路の安全点検 ・防災施設点検 	

上記の活動の中で、学校と地域と関係諸団体(愛知工業大学や NPO 法人ドゥーチューブ)で構成する防災会議については、毎月一回程度、学校で協議して進めており 8 名の 6 年生児童を中心に実施した。6 年の児童は、「昨年度の 6 年生の活動を引き継いでさらに進化させたい」との願いが強く、活動テーマを「**防災 Jr.レンジャー・セカンド～地域と共に～**」と名付けた。児童は、自分たちが学校や地区の子供リーダーとなって学区の防災を進めようと思ひ、この 1 年間の授業を通して様々な活動を行ってきた。

また、「防災会議」では昨年度の取り組みの反省として、次の 3 点を課題として挙げた。

- 平成 26 年度だけで終了することなく**継続的に実施することが大切で、下級生に情報が引き継がれ、学校の継続的な防災教育をしていくこと**
- 活動による**防災意識の変化を調査して、今後の活動のステップアップに生かすこと**
- 避難経路寸断の考慮をするとともに、**通学路だけでなく、昨年度とは異なった地域にも危険箇所について調査を広げていくこと**

今年 4 月からの取り組みとして、地域の役職の方との通学路の安全点検、全校シェイクアウト訓練、AED 体験活動、公衆電話を使つての通報訓練、防災マップ作り、防災倉庫の備品の確認、保護者や学区の住民への意識調査、危険か所の自作の看板の設置などを行った。また、関係諸団体として日本赤十字社やアクサ生命(ユネスコ)にも協力いただき、児童や地域だけでなく、教員の意識向上を図るなど活動の幅を広げている。

今年度の新 6 年生を中心とした防災活動の主な活動は下記の通りである。

ア 地域の皆さんと新 6 年生と一緒に歩いて発展させた防災マップ

イ 「昨年度の児童の活動により地域に防災意識がどれほど定着しているか」追跡アンケートの実施

ウ 児童が中心になって企画した「通学時避難訓練」と「放課の子供避難訓練」の実施

エ 学校・地域・大学、NPO 法人、日本赤十字社との協力

オ 危険箇所に常設できる看板を児童がデザインをして、地域の方と設置場所を決めて完成させた防災看板

カ 学校評議委員会の話し合い等を通して、地域の 5 町が動き出した結果「見守り隊(大葉の会)の発足

キ その他 (AED 体験活動・アクサ ユネスコ協会減災教育プログラムからの支援)



毎月の防災会議(学校・地域・関係団体)

③ 本年度の望海活動の具体的な内容

ア 地域の皆さんと新6年生と一緒に歩いて発展させた防災マップ

本年度も防災マップを作成した。昨年度の活動で見て回れなかった地区を、夏休みに歩いて(フィールドワーク)追加するとともに、**通学路以外も追加して記入した**ことである。また、新しい**防災看板設置のための場所**も考えて、マップの中に組み込んだ。「まちあるき」の際には急傾斜地の工事現場を見学して対策についても学び、その内容もマップに取り込んでいる。

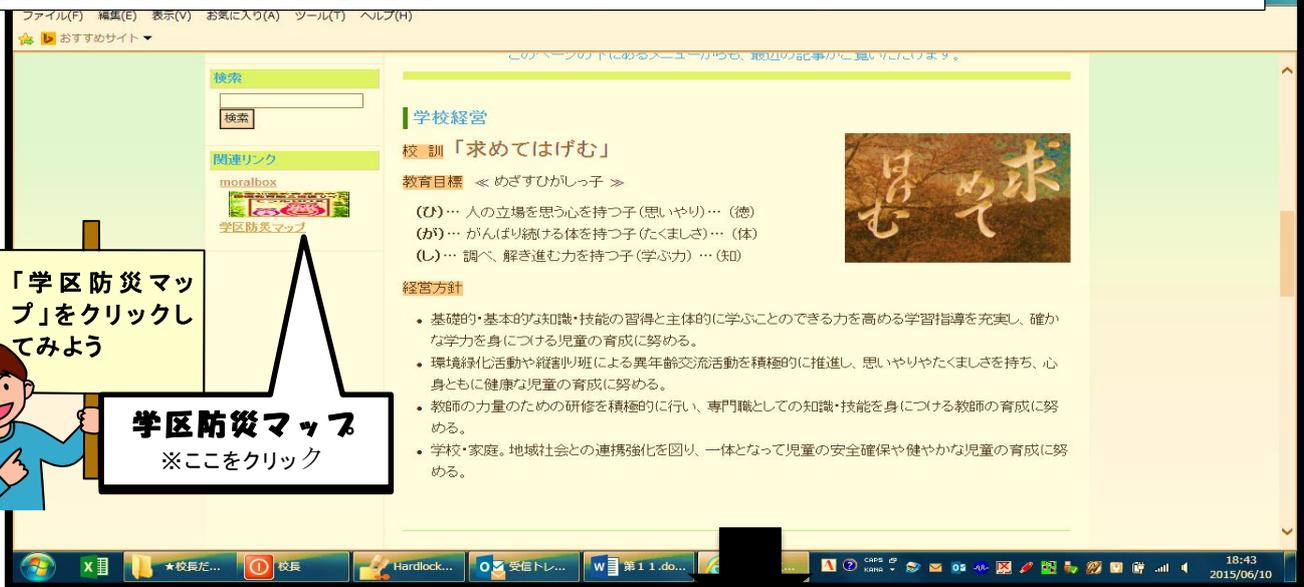
まちあるきは、学校・地域・関係諸団体と日程を調整して8月3日と8月5日の2日でまわった。6年生の児童と担任、地域からは各町の総代さんや社教委員長さん、関係諸団体からは愛知工業大学の先生と学生、NPO 法人ドゥーチュープの職員らで、協力して調査した。

※データマップは12月中に完成



防災マップづくり(地域の方との協力)

岡崎市立常磐東小学校ホームページ(ブログ)の下半分の表示



イ「昨年度の児童の活動により地域に防災意識がどれほど定着しているか」

追跡アンケートの実施

活動による防災意識の変化を調査して、今後の活動のステップアップに生かすことが必要であるとの認識から、昨年度と企画できるように同じ内容の項目も今回のアンケート項目に入れて以下のように実施した。

アンケートの作成は愛知工業大学と共同で第1回防災会議（6月3日実施）で作成することを決めて、7月1日から各町の総代さん方を通じて全世帯（350世帯）に配っていただいた。7月23日の第3回防災会議までに各町の総代さん方を通じて回収し、全体で回答率78%の回収を得た。アンケートについては、愛知工業大学で分析をしていただいた。

質問項目は全部で13項目、昨年度と同じ項目が2つ※印（設問aと設問g）ある。

※設問a 家庭で災害のための備えはありますか。備えているものを教えてください。

設問b 何日分くらいの非常食を備蓄していますか。

設問c どのくらい飲料水を備蓄していますか。

設問d これまで公衆電話を使われたことはありますか。

設問e 災害時に公衆電話が無料で使えることをご存じでしょうか。

設問f 災害時の避難などで、体が不自由で他の人の手助けは必要ですか。

※設問g 避難場所、避難経路を家族で決めていますか。

設問h 児童の作品に防災情報を記入した看板を平成25年度末に校区内に設置いたしました。

その看板をご覧いただきましたでしょうか。

設問i 学校のホームページに掲載してあります「学区防災マップ」をご覧になったことはありますか。

設問j 学区の危険箇所点検を行います。“ここは危険だ”と感じている場所があれば教えてください。

設問k 今春、町の総代さんから配られた防災マップをご覧になりましたか。

設問l 防災マップに家族写真を貼られていますか。

設問m 防災マップについて、ご感想、ご意見等お書き下さい。

『アンケートの結果』を紹介すると以下のようなようになる。

設問 a 「備えがある 94% (昨年 84%)、非常食 55% (昨年 50%)、水 70% (昨年 59%)」

設問 g 「両方決めている 15% (昨年 14%)、避難場所を決めている 37% (昨年 36%)、」

94%の方がなんらかの物を備えているとの回答をいただき、意識としては高まりつつあると感じている。意識の高まりが見られる項目がある一方で、次のような結果もある。

設問 h 「看板を読んだ 39%、看板を見たが内容は読んでない 32%、看板を見てない 28%」

設問 i 「防災マップを見たことがある 30%、知っているが見てない 33%、知らない 35%」

設問 k 「紙で配った防災マップを見た 82%、見てない(知らない)14%」

過去の 11 か所設置した **児童の手作りのペニヤづくりの防災看板**は、1 年余立っていたが 4 割程度しか知られていなかった。普段、外出されない高齢者の方々には広い学区の中に設置された看板は気がつかれなかったのだろう。**ホームページでの防災マップ**は、見られている方が 3 割ほどしかいなかったが、パソコンを操作されない方は見るできないし、当初パスワードがあり（現在はパスワードを外している）、学校の児童でも見るのがむずかしいという声を聞いた。

「設問m」の感想は、ほとんどが好意的な意見が多く、地域の方々の防災意識の向上が図られていることがその文章から伺われた。また、こうしたアンケートを実施することで、さらに意識の高まりが予想されるのではないだろうか。その一部を紹介したい。

- ・子供たちもよく調べて努力しているので、私たち地域も一体となって真剣に防災に取り組みたい。
- ・家族全員で防災マップを見ながら、この際一度安全な避難場所などについて話す機会としたい。
- ・どこが危険な場所か、どこに避難すればよいかなど地図を見て分かって良かったです。
- ・子供たちが真剣に取り組んで感激しました。よく調査してあり、備えの必要性をととも感じました。

ウ 児童が企画した「通学時の避難訓練」と「放課時の子供避難訓練」

(1) 通学時の避難訓練

- ・日時：平成 27 年 9 月 1 日一斉下校・通学路点検
- ・目的：通学班での登下校時に災害が発生した場合を想定し、安全に避難し必要に応じて公衆電話で学校や家庭と連絡を取れるようにする。
- ・参加：全校児童（米河内・開元・安戸・大柳・小丸新居の各通学班）・引率教師・地域代表
- ・内容：通学路での避難訓練と公衆電話連絡体験



シェイクアウトを実施している児童

「学区にはお年寄りが多いから避難の力になりたい」「最上級生として下級生を守りたい」という気持ちから、危険地区を地域の総代さん方と共に歩いて確認するフィールドワークを行った。自分たちが普段使用している通学路沿いにも、たくさんの危険箇所があることを知り、「通学途中に災害が発生したときに、班長として自分たちが下級生を避難させなければいけない」という危機意識を持ち、次のような活動を実行した。

- ① 各班の 6 年生が、通学路の危険箇所について実際の場所を示しながら説明する。
- ② 途中で地震発生を想定し、1 分間の「シェイクアウト」を行う。
- ③ 通学路の公衆電話を使い、自分の班が全員無事であることを学校に連絡する。

翌日の報告会では「自分たちが真剣に行えば、下級生も協力してくれた」「今回は進行メモを持っていたからスムーズにできたけれど、実際るときに自分もパニックにならないか不安になった」「低学年の子はきちんと理解できていないようだった。繰り返し練習する必要がある」などの意見が出た。

(2) 放課時の子供避難訓練

- ・日時：平成 27 年 12 月 4 日 2 時間目終了後の長放課
- ・目的：教師が近くにいない時などに災害が起きた場合を想定し、校内各所から上級生の指示のもと、速やかに安全に避難場所に集合することができるようにする。
- ・内容：校内各所からの避難訓練



6年生の誘導による避難訓練

これまで本校の避難訓練は、決まった時間に教室から教師の指示に従って行う形式であった。「災害はいつ来るか分からないのだから、放課などで先生がいないときにも避難できるような訓練が必要だ」という 6 年生の提案があり初めての児童中心の訓練を実施した。今回は初めてのことであるので低学年の実態などを考え、あらかじめ長放課に避難訓練があることは予告し、必要以上に児童をあわてさせないよう安全上の配慮をした。企画者の 6 年生は、普段よく行く場所を担当と決め、避難指示を出す練習をしておいた。そのため、6 年生は落ち着いて「静かに。机にもぐって」などの指示を出し、下級生を先導して運動場に連れて来ることができた。6 年生が各学年に整列の指示を出し始めたころ、駆け付けた担任が合流し、人数確認等を行った。

事後の報告会では、「遊具の場所からは放送の音が聞こえづらかった。もう少し音を上げてほしい」「ガラス窓の近くでシェイクアウトをしようとした子がいた。校内の危険箇所について確認する必要がある」等の意見が出て、改善のきっかけになった。

工 学校・地域・大学、NPO法人に加え、「日本赤十字社愛知県支部」との協力

防災教育では学校だけではなく、地域や関係諸機関との協力が不可欠である。そこで、本年度は防災教育に取り組んでいる日本赤十字社(日赤)の担当者の方に相談して講師をお願いした。児童に対しては総合的な学習の授業で、教職員には現職教育で、保護者には授業参観で防災や救急対応などの講師をお願いした。

11月17日、日赤愛知県支部の手島先生から、地震での減災を学べる教材「いえまですごろく」で「災害伝言ダイヤル(171)」や帰宅支援ステーションなどの情報も学びながら、ゲームを通して1時間を使って防災学習をした。次の1時間は、「せまりくる南海トラフ大地震～正しく知って正しく備える～」をテーマに、地震が起きたとき家庭や学校で自分たちができることについて、小学生にできることを分かりやすく説明をしていただいた。

11月26日、現職教育の時間に教職員の研修会を本校のパソコン室で開催した。手島先生を講師にお呼びして、各教科領域でできる防災(減災)教育について、日赤が作製した授業で使える防災教材テキスト「まもるいのち ひろめるぼうさい」に基づいてご指導いただいた。テキストは、青少年赤十字防災教育プログラムとして授業でそのまま活用できる資料や

映像教材、ワークシートや指導案もDVDで用意されており、すぐに使えるようになっている。また、児童の発達段階や指導内容に応じて資料が用意されており、楽しく学べるような要素が十分に盛り込んで作成されている。「エンカウンターと同じだね」「ゲーム感覚で学べるね」「楽しそう、ぜひやってみたい」などの声があちこちから聞こえてきた。

1月21日、授業参観で保護者といっしょに、防災教育をした。講師として日赤岡崎指導員が2名来られた。授業では、災害等でけがをしたときの応急処置の仕方として日常家庭にあるものを使って指導された。三角巾がわりにストッキングを使って腕を固定したり、ハンドマッサージの仕方について実演をしながら説明してくれたりした。親子で対話をしながらストッキングやタオルなどを使って腕を固定したり、親子でハンドマッサージをしたりするなど、実のある防災教育に、保護者からもいい評価をたくさんいただいた。子供たちは自宅に帰ってからも祖父母にマッサージをしてあげたという報告も耳にした。

本校は、平成28・29年度の2年間、青少年赤十字活動研究推進校として、研究委嘱を予定している。研究は防災(減災)教育だけでなく、教科領域全般であるが、次年度以降も日本赤十字社愛知県支部と関わりをもって、子供のための教育を推進していく。



6年総合的な学習の時間



日赤の方と授業内容の打合せ



日赤指導員の方を招いて応急処置を学ぶ

オ 危険箇所に常設できる看板を児童がデザインをして、地域の皆さんと設置場所を決めて完成させた防災看板

一昨年度の平成25年度末に児童の作品に防災情報を記入した防災看板を地域の危険と思われる11箇所に設置をした。その防災看板は子供による手作りの良さはあったが、素材がベニヤで十分な耐久性がなく、その多くを昨年度末に撤去した。

今年は、耐久性にも優れた素材で製作することを決めた。子どもたちの考えたイラストをベースにデザインし、地域の役員の方々にもご協力いただいてどこに常設するか、文言やデザインは適切かなどの会議を繰り返し、市内の看板店に製作を依頼した。その際に新しい防災看板のデザイン案を競う「**防災キャラクターグランプリ**」を実施した。学校の児童や教職員だけでなく、保護者会で全保護者にも参加して応募してもらった。さらに、各町の総代さんをお願いして、地域の回覧板にグランプリの応募用紙を入れて、投票に参加してもらったりするなど、学校・家庭・地域への防災に関する意識昂揚に努めた。



H25 手作り防災看板



6年授業：防災キャラクターを決めよう



防災キャラグランプリに投票する児童



グランプリの投票用紙



地域の役員との話し合い(看板の設置場所)



看板業者との話し合い



防災看板の完成デザイン

力 学校評議委員会の話し合いを通して、地域が動き出し、「見守り隊(大葉の会)」発足
 本校では年に3回、学校評議委員会を開催している。参加者は、学区総代会長・社教委員長・有識者(前社教委員長)、PTA会長・見守り隊長と学校(校長・教頭)とで学校行事や児童や家庭などの様子についてご意見を伺い、学校経営や運営について参考にさせていただいている。12月9日に実施した第2回の会議は、6年児童全員と担任も加わり、「OC委員会(オピニオンサークル)」を開催して、児童・学区の皆さんとで話し合いをした。

◎テーマ：「ぼくの意見・私の意見 ～常磐東小学校&学区をよりよくするために～」

① 今後、常磐東小学校に残していきたいこと よりよくしたいこと

② 常磐東学区で地域の人をお願いしたいこと

この話し合いで、驚いたことに児童の全員から、学校に残していきたいこととして、「防災学習」を後輩にも引き継いでほしいという意見が出された。また、学区に対しても、防災・通学路の安全についての意見が集中した。

◎後輩に対する主な意見

- ・大学の先生や総代さんと学区を歩いて、土砂崩れや川の増水など危険な様子がよくわかった。
- ・南海トラフト大地震が近い将来くることを学んだが、どこに逃げればよいか、多くの地域の人にも考えてほしいので、後輩に続けてほしい。
- ・6年生が中心となり避難訓練をやり自分たちにもできることがわかったので、後輩にも続けてほしい。
- ・学校の防災倉庫に何があるか調べて、必要なときに使用できるようにしてほしい。

◎学区に対する主な願い

- ・安戸町は家の前で土石流の可能性があるので心配だ。
- ・防災食料を蓄えていない人がいるので、防災食料の販売をしてほしい。
- ・木もいっしょに土砂崩れがおきそうなので、「危険を知らせる看板」がないところにつけてほしい。
- ・通学路に大きな石がおちたところもあるので、通学の安全をお願いしたい。
- ・歩道が狭く、車も信号がないのでスピードがものすごく出ていてカーブなど歩いていても危ないところがあるので、看板や歩道と車道を分けるブロックをつけてほしい。

◎見守り隊「大葉の会」発足

児童の防災の意見や学校・保護者の交通安全の願いもあって、米河内町しかなかった見守り隊の組織が、五町(安戸町・大柳町・小丸町・新居町・蔵次町)にも、見守り隊「大葉の会」としてようやく発足した。

1月18日の市民ホームでの発足式には、各町の総代さんや社教委員長のほか、見守り隊の方々なども出席いただいた。



第2回学校評議委員会(OC委員会)



学校にある防災倉庫を点検する児童



見守り隊の方といっしょに登校する児童

キ その他(AED体験活動 アクサ ユネスコ協会減災教育プログラムからの支援)

(1)心肺蘇生法訓練

1 日 時 平成27年6月18日(木)午後2時

2 目 的

応急手当の重要性を理解し、水泳訓練やプール開放などで役立つ心肺蘇生の基礎知識を学び、応急手当の仕方を実施訓練する。

3 参加者 保護者 全教職員 児童全員

4 内 容

今年度の訓練で、昨年度と異なる点が2つある。

1つめは、6年生の児童が体験し、他の学年は見学すること。2つめは、保護者だけでなく、地域の方々にも声をかけて自由にご参加いただいたことである。

今回、消防署から4名の講師が来てくださり、保護者全員が体験をすることができた。参加児童からは、「倒れている人の命を救うことのすごさを知りました」「見ているのと体験するのでは大きな違いがあった」等の感想が聞かれた。

5 その他

地域の方々にも、いろいろな機会にAEDの使用の必要性を説明させていただいた。その結果、6月19日に社会教育委員会でも、AEDの使用の講習会を学区市民ホームで初めて開催された。

社会教育委員長は、「命を救うAEDの使用について、いざという時のために、できれば今後、学区全域を対象に毎年講習会を開いて使い方を学習したい」と述べられた。

(2) アクサ ユネスコ協会減災教育プログラムからの支援

4月下旬、市教育委員会より「アクサ ユネスコ協会減災教育プログラム」助成金について紹介され応募したところ、6月16日に助成決定の通知が届き助成金をいただいた。この助成金を活用して、防災会議では、子供たちが最も必要だと思っている防災看板の製作費用に充てることを決定した(完成予定2月)。

また、9/13日～9/15の2泊3日で減災教育プログラム教員研修会に参加し、宮城県と岩手県の被災地や仮設住宅の見学や、現地の小中学校の訪問をした。研修会では、減災教育についての授業方法について各専門家やNPO法人、仙台市長様をはじめ、各方面の代表の方々のご講演を聞いて多くのことを学ぶことができた。さらに、全国から集った小・中学校、高等学校、幼稚園、教育委員会など50名による協議会などで、各学校での取り組みの一端を紹介していただくなど大変参考になった。

今後、児童の発達段階に応じて年間計画の中で防災を実践していきたいと考えている。



児童も初挑戦 東海愛知新聞に掲載



被災地宮城県での防災研修発表会

4 これまでの主な取り組み一覧表

平成27年度 常磐東小学校防災記録 (H28.1.31現在)				
日付	曜	主な活動	具体的な内容	構成員・人数
4月6日	月	①学校始業式	この地域は地盤が緩いところもあるためこれまで土砂崩れや河川の氾濫などが起きて多くの災害が出ている。命は何よりも大切なものであるので、気をつけるように話をする。	児童48 教職員12 保護者来賓30
4月7日	火	①学校通学団会 通学路点検	通学団で通学路の心配な箇所があればその場所の報告・確認をした。集団で登下校するようにするとともに、通学路で心配なところがあれば、必ず家の人または学校の先生に報告するように徹底した。心配な場所があればすぐ地域の総代さんと協議して対応する。	児童48 教職員8
4月9日	木	①学校防災避難訓練1	全校児童生徒が校舎の火災の避難訓練で運動場に避難した。火災だけでなく学校の体育館と校舎はすぐ隣に山があり、大雨で山崩れが起きると運動場へ避難しなければならない。今回はあらかじめ予告をしておいて避難訓練を実施する。	児童48 教職員12
4月18日	土	①学校PTA総会	PTA総会にて常磐東小学校 学区安全マップを配布して学区の安全のご協力を依頼した。また、登下校の安全のために保護者による通学路安全ボランティアの継続もお願いする。総会后、緊急時における児童の引き渡し訓練も実施。	児童48 教職員12 保護者48
4月22日	水	①学校安全教室	1・2年生の児童とその1年生の保護者を対象に安全教室を開催する。PTA会長、地元交通安全指導員、駐在さんらもご出席いただき、交通安全を中心に、登下校での不審者、イノシシや猿、土砂崩れなどの危険を説明。	児童15 教職員5 保護者8
5月13日	水	④防災会議1	今後の活動について協議 1防災コンテストに応募する 2防災マップにする 3活動の継続・見直し	学校2 地域4 大学関係7
5月14日	木	①学校見守り隊発足	通学安全ボランティア「常磐東学区見守り隊」の方々が12名在籍しており、毎日通学路に立ってあるいは一緒に歩いていただき見守りをしていただいている。その方々との年度初の会合を開いて、子供たちの安全に関して意見を交換した。	見守り隊12 学校2名
5月21日	木	①学校職員会	学校危機管理マニュアルを職員会議で配布して、防災教育に関して本校の取り組みについて説明を校長がした。内容は防災に関する年間の行事計画、対人管理、対物管理、地域との連携など。防災教育について今年度で学年別に系統的に考えていきたい(1学校でできること 2家庭でできること 3通学途中でできること)	職員12名
6月3日	水	④防災会議2	今後の活動について協議 1赤十字など外部の団体との協力 2全世帯防災アンケートの実施 3フィールドワークの計画	学校2 地域4 大学関係4
6月6日	土	②PTA通学路草刈り1	保護者と地域の方々による通学路の草刈りをしていただいた。通学路で心配な箇所や地盤のゆるんでいる箇所があれば報告をしていただくようお願いした。	保護者・地域 100人
6月16日	火	①学校ユネスコの減災教育プログラム決定	4月27日(月)岡崎市教育委員会学校指導課より、「アクサ ユネスコ協会減災教育プログラム」助成金について案内があり、5月15日(金)に応募したところ、6月16日に助成決定の通知が届く。	
6月18日	木	①学校心肺蘇生法訓練	心肺蘇生法講習会で、昨年度と異なる点が2つある。1つめは、6年生の児童が体験し、他の学年は見学すること。2つめは、保護者や地域の方々にも声をかけてご参加いただいたこと今回、中消防署北分署から4名の方々が講師に来てくださり、保護者全員が体験をすることができた。	教職員・児童・保護者・地域 80人
6月19日	金	③地域心肺蘇生法訓練	常磐東学区の社会教育委員会で初めて、AEDを使った心肺蘇生法講習会を開催。これも、子供たちの防災意識が高まり、地域の方々に防災アンケートをお願いしたりして駐在所、学区公民館、市民ホームなどにもAEDを購入して設置された。	社会教育委員会 35名
7月23日	木	④防災会議3	今後の活動について協議 ●全世帯防災アンケートの回収・分析について ●フィールドワークの具体的な計画(実施日の決定・内容) ●防災マップについての内容	学校2 地域3 大学関係4
8月3日	月	④フィールドワーク1	児童とともにフィールドワーク米河内町など	学校1 地域4 大学関係10
8月5日	水	④フィールドワーク2	児童とともにフィールドワーク 安戸町、大柳町など	学校1 地域4 大学関係10
8月24日	月	①学校少年消防クラブ	岡崎市消防本部(予防課)の推薦で、愛知県少年消防クラブ県表彰に応募した。防災・減災活動および防災教育を中心とした内容で提出した。	
9月1日	火	①学校始業式 防災避難訓練2	2学期始業式後、地震に対しての防災訓練を全校で実施した。雨天のため、全員避難所に指定されている体育館に避難しました。そこでシェイクアウト訓練や防災に関する話をした。	児童48名 教職員9名
9月1日	火	①学校通学路点検	授業後は、地域の総代さん、愛工大の先生や学生の皆さんと一緒に通学路点検をした。児童は公衆電話をかけて報告する訓練、シェイクアウト訓練を実施。通学路の危険箇所がないかどうかの点検を先生方にいただいた。	児童48名 教職員10名 大学関係8名 地域の方4名
9月1日	木	④防災会議4	●全世帯防災アンケート分析について ●フィールドワークのまとめ ●減災として防災注意看板の設置について	学校3 地域4 大学関係4

番	日付	曜	主な活動	具体的な内容	構成員・人数
21	9月5日	土	②PTA 通学路草刈り 2	それぞれ地域の保護者と地域の方々による通学路の草刈りをしていただいた。通学路で心配な箇所や地盤のゆるんでいる箇所があれば報告をしていただくようお願いした。	保護者・地域 50人
22	9月13日 ～ 9月15日	日	①学校 ユネスコの減 災教育プログラ ム研修	9/13日～9/15の2泊3日で減災教育プログラム教員研修会に、場所は岩手県一ノ関市で、開催された。研修は校長が参加。東日本大震災を踏まえた減災教育。減災教育カリキュラムの開発と実践、防災学習ノート、気仙沼市の小中学校の訪問、被災地区の視察、地域での特別講話等	
23	9月24日	金	①学校 防災避難訓練 3 防災救助袋使用	救助袋を使った降下訓練を実施。今年は、4年生と6年生の児童が体験した。本校は、校舎3階から真下に降りる垂直降下方式の救助袋で、中は安全のためにらせん状になっている。今回は、一昨年度経験をした6年生が実施して、その後、4年生が降りた。	教師5人 4年児童5人 6年児童8人
24	9月28日	月	①学校と 赤十字	日本赤十字社愛知県支部担当手島先生と打合せ 11月17日に防災に関する授業についての内容	教師2名 赤十字1名
25	10月5日	月	④防災会議5	今後の活動について協議 1赤十字など外部講師による授業 2各地域での防災の取り組み状況 3今後の活動 看板について	学校3 地域4 大学関係3
26	11月11日	水	④防災会議6 マップ作り	児童と一緒に、白地図に6年児童の家、危険な場所などのチェックをしたり写真を貼ったりする作業。写真については夏休みなどで児童が歩いて写真を撮ったもの。 今後について防災会議をする	児童8名 教職員3名 大学関係4名 地域の方4名
27	11月11日 ～17日		実家庭対象 アンケート	防災学習のアンケート調査を実施 回収率100% 対象:全児童の家庭35世帯 実家庭数:(上位学年優先) 1年5世帯, 2年3 3年5 4年2 5年12 6年8 町ごとの 内訳:米河内町20世帯、大柳町7, 新居3、小丸2, 安戸3	
28	11月17日	火	①学校 防災授業6年 赤十字社講師	日本赤十字社の手島英樹先生をお招きし、6年生が総合的な学習の時間で進めている防災学習について、さらに深く学ぶことができた。「いまでもすごろく」という防災教育のキットを使って、大地震の発生時に起こりうる状況を疑似体験しながら、自分で判断して自分の命を守ることができるように学んだ。次に、身の回りにある被災したときマークを教えていただいた。	赤十字社愛知県支 部手島英樹先生 6年児童8名 大学1名 地域3名
29	11月21日	土	3通学の集合 場所&学校周 辺の草刈り	37名方がご参加いただき、汗をかきながら、竹を切り、草を刈っていただいた。皆さんのおかげで、子供たちが登下校で集合する時に利用する広場や、学校周辺が見違えるほどきれいになった。	地域35人 学校2
30	11月26日	木	①学校 教職員研修	日本赤十字社の手島英樹先生をお招きして、防災教育の具体的な方法について学ぶ 青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」(防災教材)について講習を受けた。	赤十字社愛知県支 部手島英樹先生 教職員10名
31	11月20日 ～ 12月1日		6年防災キャ ラグランプリ	6年生児童が地域の中で、災害の危険が予想される場所に注意を促す看板を設置しようと計画。そのために看板が親しみやすかつ目にとまりやすいように「防災キャラクター」を考えた。キャラクターを一つに統一するために、また防災について学校や地域の方々にも関心を持ってもらうために、全校児童並びに学区の方々に「防災キャラクターグランプリ」を開催して投票してもらっている。地域については回覧板を回して総代さん方をお願いした。	
32	12月4日	金	6年生企画 避難訓練	11月26日の防災授業を受けて、「災害や地震はいつ起きるか分からない」、「先生がいなくてはおきたら」と6年生が問題を提起して、臨時避難訓練を申し出た。今までは①避難訓練の時間の設定をして ②教師の指示で 実施していた。今回は、①については、他の学校で突然実施したら、児童が慌てて逃げたという問題も発生したとのことで、①のいつするかについてはあらかじめ予告した。しかし、授業中ではなく放課の時刻を設定して、子供は教室だけでなく別の場所にいることも可能とした。②については、教師は教室に必ず6年生の児童が学校の主要な各場所で指示をする形とした。	全校48名児童 教師10名
32	12月7日	月	④防災会議7	防災マップコンクールについて、提出具体的に話し合う	学校3 地域4 大学関係4
31	12月号		月刊PTAおか ざき	12月号は「防災」がテーマで、2ページに「登下校中の大地震その時は」というコーナーがあり、本校のことが掲載された。本校をC小学校と記載されている。	
30	1月8日	金	①学校 防災避難訓練 4	全校で、昼放課自由に移動してその場で避難警報(地震→火災)シェイクアウト訓練や火災避難訓練を実施して、それに関する話をした。	全校48名児童 教師10名
31	1月12日	火	防災看板① 防災学習授業	1月12日の6年生の総合的な学習の授業で、「防災看板の設置場所」について検討した。子供たちだけでは、不安であったので、地域の総代さんや社教委委員長さんなど多くの方々にもご出席いただき、看板設置場所・看板の図案が決定。	6年児童 地域4名
32	1月14日	木	防災看板② 図案の検討	飯田看板店の社長と看板の図案・看板の枚数・値段・大きさや色などについて協議して決定。	担任・校長・ 業者
32	1月18日	月	防災看板③ 看板の修正	社教委委員長・総代会長と看板の文字やデザインの確認及び修正を協議	校長 地域の役員

5 おわりに

今夏、アクサ・ユネスコ協会のご支援で岩手県に研修に行ったとき、県下の全学校で防災教育はESDとして実践されていた。本市の場合、環境教育・英語教育・岡崎の心の醸成の縛りがあり、防災教育の時間の十分な確保は難しい。その中で、昨年度の課題として以下の3点で組んできた。

(1) 下級生に情報が引き継がれ、学校の継続的な防災教育に発展すること

昨年度の6年生の後輩に対する願いを受けて、新6年生が活動の中心となった。最上級生として「子供避難訓練」を企画し、6年生が全校の下級生をグラウンドまで避難誘導を行うという新たな試みを実施した。また、先輩の作った防災看板をより耐久性の高い新看板の製作をした。新看板のデザインを決める「防キャラグランプリ」を開催し、全校児童、保護者や地域役員の方にも投票していただき防災への関心も高まった。後輩にも引き継いでもらい、別の地域に防災看板を希望するなど、着実に引き継ぎがなされる素地ができあがりつつあると実感している。

(2) 活動による防災意識の変化を調査し、今後の活動のステップアップに生かすこと

6年生児童が、学区全戸の350世帯にアンケートを実施し、約8割の方から回答を得た。防災に関する備えとして94%の方がなんらかの物を備えているとの回答をいただき、意識としては高まりつつあると実感している。また、見守り隊「大葉の会」の発足、地域のAED講習会の実施などからも活動がステップアップしている様子が伝わってきた。これも、地域役員の方をはじめ、惜しみない協力や支援をいただいたからだと思う。

(3) 学校や通学路だけでなく、さらに地域に広げていく活動

今年は通学路だけでなく広い地域にも足を運んで危険地区の調査をした。そこで分かったことは、学区において青木川沿いの県道が唯一の幹線道路であり、適切な迂回路はないことである。孤立してしまった場合を考えて、防災倉庫の点検、家庭での備蓄状況の調査、昨年度設置された「公衆電話」を使った安否連絡訓練などを、子供たちの目線で行うことができた。

防災教育は命にかかわる最も大切な教育だと思う。幸い本校は、地域の総代会及び社教委員会・愛知工業大学地域防災研究センター、NPO法人ドゥチュウブ、日本赤十字社愛知県支部との連携もあり継続して実践することができた。そのつながりを大切にして、今後も子供と共に地道に取り組んでいきたいと思う。



H26 常磐東学区防災訓練(小学校)



H27シェイクアウト訓練(小学校)



H27防災看板のデザインと設置場所



H27防災の授業(地域の方の協力)



H27登下校・4公衆電話を使って報告訓練